

# わたしに問わなかった者たちに、わたしは尋ねられ わたしを捜さなかった者たちに、見つけられた

第195号

イザヤ 65:1

平成23年12月30日

あなたがたは年数からすれば、教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっていきます。まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じていません。幼子なのです。しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって、良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目ざして進もうではありませんか。死に至る行いからの悔い改め、神に対する信仰、洗礼についての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしえのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。神がお許しになるならば、私たちはそうすべきです。

一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力とを知ったうえで、しかも墮落してしまうならば、そういう人々をもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、恥辱を与える人たちだからです。土地は、その上にしばしば降る雨を吸い込んで、これを耕す人たちのために有用な作物を生じるなら、神の祝福にあずかります。しかし、いばらやあざみなどを生えさせるなら、無用なものであって、やがてのろいを受け、ついには焼かれてしまいます。

だが、愛する人たち、私たちはこのように言いますが、あなたがたについてはもっと良いことを確信しています。それは救いにつながることです。神は正しい方であって、あなたがたがこれまで神の民を助け、また今も引き続き助け神に示した、あなたがたの行いと愛をお忘れにならないのです。そこで、私たちは、あなたがたひとりひとりが、同じ熱心さを示して、最後まで、私たちの希望について十分な確信を持ち続けてくれるように切望します。それは、あなたがたがなまけずに、信仰と忍耐によって約束のものを相続するあの人たちに、ならう者となるためです。

ヘブル人への手紙 5: 12-6: 12 (下線部は新国際訳聖書 NIV から)

『ヘブル人への手紙』の著者はこのくだりで、信仰の成熟へと進むべき過程で、振り出しに戻ってしまった信仰歴の長いクリスチャンの実態を指摘し、救いを失いかねない深刻な問題に直面していることを警告すると同時に、健全な信仰の歩みをしている者たちには、最後まで救いの確信を持ち続けるようにと励ましています。ここには、「神のことばの初歩」、「(霊の) 乳」、「キリストについての初歩の教え」として六つの教理が示されています。邦訳より明確な NIV よりますと、キリストの福音の初歩的な教えとして信者が理解していなければならないのは、1. 死に至る行い(複数)からの悔い改め、2. 神に対する信仰、3. 洗礼(複数)についての教え、4. 手を置く儀式、5. 死者の甦り、6. とこしえの裁き、です。1. は自分の内に宿る、自力では除くことのできない罪を認め、永遠の滅び、死に至る罪の暗闇から向きを変えること、2. は罪からの解放、救いを求め、永遠の生命に至る神の光に向かうことで、3. は、ユダヤ教への改宗の洗礼、洗礼者ヨハネが施していたヨルダン川での洗礼、昇天後、キリストが弟子たちに命じられた「父、子、聖霊の御名によるバプテスマ」など、さまざまな形式の洗礼法に言及しているようです。また、「火によるバプテスマ」、すなわち、再臨のキリストによる「裁き」にも言及されているかもしれません。4. は、『使徒の働き』の中で例が挙げられているように、キリストの御名による洗礼の後、聖霊が授けられた手段の一つでした。また聖職者の按手礼(あんしゅれい)や、いやし、祝福の授与のためにも、手を置いて祈ることは初代教会の時代には一般的に行われていたことでした。5. は、「わたしは、よみがえりです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません」(ヨハネ 11: 25-26)、「墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。善を行った者は、よみがえっていのちを受け、悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです」(ヨハネ 5: 28-29)と、キリストが約束された、この世の終わりに成就する義人の「とこしえの生命への甦り」です。6. は神の憐れみによる救いを拒み、罪の道を歩み続ける者の行く末がとこしえの裁きであることを教えるものです。これは、3. で言及した「手に箕をもって脱穀場をことごとくきよめ、麦を倉に納め、穀を消えない火で焼き尽くされ(る)」キリストの「火によるバプテスマ」(ルカ 3: 16-17、邦訳別訳)のことです。

明らかなように、「(霊の) 乳」とはクリスチャンが信じ、理解していなければならない上述の基本的な教理のことで、「堅い食物」とは、キリストを信じ、受け入れた者が成熟を目指してどのように生きるべきか、教理の実践、賢い応用に言及しているようです。基礎的な教理を理解した者でなければ、この世の複雑な問題に直面したとき、善悪を見分け、成熟したキリスト者として対処していくことができないのです。しかし、「神がお許しになるならば……そうすべきです」という表現に、人の心を開き、霊的成熟へと導いてくださるのは神ご自身

であるという『ヘブル人への手紙』の著者の確信、主への全面的依存が表明されているように、成熟への道は、主の教えへの忠誠、忍耐によってのみ達成できるのです。使徒パウロが弟子テモテに奨励した、主の成熟した伝道者としての道はまさに、この「**堅い食物**」を消化していく信仰生活でした。「**あなたの生活と教理を注意して見守りなさい。忍耐をもってそうしなさい。あなたがそうするなら、あなたは自分自身とあなたの教えを聞く人々を救うことになるからです**」(テモテ第一4:16、NIV)、「**あなたは、健全な教理に一致したことを教えなければなりません**」(テモテ第二2:1、NIV)と、パウロは救いは神のわざであるが、聖書に記されているキリストの教え(健全な教理)を土台に生きるキリスト者が、他人に救いをもたらす神の道具になり得ることを教えています。キリストによる救いは、罪を悔い改め、信仰告白し、洗礼を受けるという出来事であると同時に、「キリストに似た者となる」ための過程です。パウロは、キリストを知ることの素晴らしさを「**私はキリストのためにすべてを捨てて、それらをちりあくと考えています。それは、私には……キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。私は、キリストとその復活の力を知り……どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。私は、すでに得たのでもなく、すでに完成されているのでもありません……目標を目ざして一心に走っているのです**」と証しています。

このパウロと正反対の生き方は、主の御旨に反逆して生きるクリスチャンの姿です。神の偉大なる贖いの出来事、「**出エジプト**」の後、自然の恵みに満ちた「**乳と蜜の流れる地**」カナンを探り、その地の実りを味わった後、なおかつ不信仰に陥り、ついに約束の地「**神の安息**」に入ることができなかったイスラエルの民のように、クリスチャンも、受けた神の光を拒み、主の御旨に反逆する墮落の道を歩み続けるなら、もはや悔い改めて主に立ち返ることはできなくなります。神の一方的な憐れみによる救いを仇で返すような「**恥辱を与える人々**」、背信のクリスチャンの行く末は、神の呪いと裁き、永遠の滅びです。『ヘブル人への手紙』の著者は「**もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるならば、罪のためのいけにえは、もはや残されていません……恵みの御霊を侮る者は、どんなに重い処罰に値するか、考えてみなさい**」(10:26-29)と、厳しい口調で警告を発していますが、御霊に逆らう冒涇が赦されないことを教えられたのはキリストご自身でした。神はどんな罪をも赦すことができ、赦してくださる方ですが、例外があります。神が赦してくださらない罪は、キリストの御名を信じない、御子に聞き従わないこと、すなわち、キリストを拒むことで、「**御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる**」(ヨハネ3:36)の一言に集約されるのです。キリストの最初の来臨、人としてこの世にご降誕されたとき、神の民、ユダヤ人たちはキリストを拒みましたが、「**父よ、彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分で分からないのです**」(マタイ23:34)とのキリストの執り成しが聞かれ、彼らは赦されたのです。しかし、キリストの昇天後十日経った「**五旬節の日**」、父なる神の約束の聖霊が下ったとき、神の大いなるわざを目の当たりにしながらも、ユダヤ人宗教指導者たちはなおもキリストによる救いを拒んだのでした。このペンテコステの出来事は、全世界の信じるすべての者にキリストによる救いの道を開いた一方で、ユダヤ人宗教指導者はじめ、ナザレ人イエスをヘブル語聖書が証しするユダヤ人のメシヤとして受け入れなかったユダヤ人には永遠の救いへの最後の機会となったのでした。神が顕わされた証拠を拒んだ者たちはすべて、不信仰のゆえに死んだのです。神の御霊の証しに反逆する罪を犯す者にはもはや赦しがあり得ないことを、このペンテコステの出来事は明らかにしたのでした。

御霊の証しを拒み続け、キリストに反逆する罪人(つみびと)を神は決して赦されず、この世の信じない者と同様に裁かれることを銘記することは大切ですが、暗闇の支配者サタンが、冒頭に引用した聖句や10章26-31節を逆手にとって、神の民を非難し、落胆させようと試みていることも確かです。しかし、主との正しい関係を保ち、主にしっかりつながっている真のキリスト者が「**赦されない罪**」を犯すことがあり得ないことを銘記し、御言葉に基づいて主にある確信を持つことは、敵にだまされないためにもっと大切なことです。「**もし神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます**」(ヨハネ第一1:7-9)は、信じる者に確信を与える多くの聖句の一つです。キリストが十字架上で流された血潮による聖めだけが、罪の奴隷に生まれたすべての人間「**罪人**」が、罪から解放され、義と認められ、とこしえに生かされる唯一の方法、新しい時代に生きる希望なのです。

上述の六つの「**神のことばの初歩**」のうち半分以上はキリストの初臨によって明らかにされましたが、「**洗礼についての教え**」のうちの「**火によるバプテスマ**」と、「**死者の復活**」、「**とこしえのさばき**」は、キリストの再臨のとき成就し、そのとき初めて、良い麦がともに成長した毒麦から完全に選り分けられることによって、キリストの真の教会「**花嫁**」が明らかにされます。今日、主の再臨の教えは、多くの教会で重要視されていないようですが、教会が健全に成長するための初歩的な教えで、全世界の人々に再臨を告げることは、「**神の御旨のすべてを教えなさい**」とのご命令に則って、キリストご自身の大宣教命令の重要な一部なのです。